

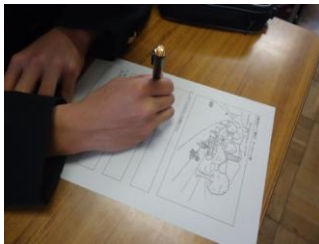
活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】地震発生と同時の火災発生		
学校名	平生町立平生中学校		
日時	平成25年12月9日(月) 5・6時間目		
場所	グラウンド及び農道付近	参加者	生徒・教職員

## 1 訓練のねらい

- (1) 非常災害時に際して、安全かつ敏速に避難できる訓練を行なうとともに、防火・防災に対する理解を深め、併せて身体や生命の安全と緊急時に対応できる能力を養う。
- (2) 避難時における基本的動作と安全行動について、理解・実践させる。
- (3) 非常時における教職員の避難誘導體制の確認を行う。

## 2 訓練の概要

- (1) 目的・方法・注意事項の説明  
KYT学習(学年に応じて資料選定)



- (2) 【地震発生】と同時に【火災発生】を想定する。  
【火災発生】非常ベル鳴動  
【火災確認】報告→初期消火並びに消防署通報訓練、避難放送、緊急避難  
【通報】と同時に【緊急放送】  
通報は事務室から。緊急放送は職員室から行う。  
【避難誘導開始】階段、廊下の定位置  
【初期消火】初期消火班訓練

【緊急避難】雨天のため体育館に避難  
カーテンを開き、窓は閉める。  
出入口は開けたまま。  
「押さない 走らない シャべらない」



### 【人員確認】

学級委員→担任→学年主任→教頭→校長の順(計時)



【全体指導】校長から避難の様子や釜石小学校・中学校の高台避難について講話をした。

- (3) 【二次避難場所への避難開始】

津波発生を想定して、学校山手の農免道路への避難訓練を予定していたが、雨天のため、二次避難場所の確認をした。

## 3 訓練の成果と課題

### 【成果】

- ◇ 雨天のため体育館に避難したが、各学年とも「押さない、走らない、しゃべらない」の原則は守れた。
- ◇ 今回は、天候によりグラウンド避難と体育館避難の両方を想定していたので、担任はもとより学年の教員は避難経路について臨機応変に対応するため、学年間の調整をする必要があった。職員室でこのことが話題になっていた。意識の高揚につながったと思われる。
- ◇ 15分程度ではあったが、KYT学習を行った。学年生徒の実態に応じた資料を学年主任を中心に決定した。避難訓練後、10分程度振り返りの時間をもてたことはよかった。なかなか時間がとれないが、交通安全や不審者対応のKYT学習を実施することも意義があると考えている。

### 【課題】

- ◆ 体育館まで3分30秒、その後人員点呼し、学級委員→担任→学年主任→教頭→校長への報告が40秒であった。人員点呼が形式だけで終わっていたので、人員点呼の重要性を話し、計時の後もう一度やり直した。人員点呼の際の担任の指示の出し方にも問題が浮かび上がった。
- ◆ 前回は教頭が119番通報訓練を行ったので、今回は事務員が通報をした。緊急放送も誰でも行えるよう、訓練のたびに分担を替えて実施していきたい。